

發 刊 の 辭

前に先輩故小川、中村兩教授の發案に依り、廣く同學の士と聯絡して地球學團を興し、雜誌「地球」を刊行して學界に訴ふる所あり。大正十三年一月號を以て始まり、昭和十二年六月號に及ぶ。此間卷を重ねること二十七。常に地質學と地理學との進歩と普及とに貢獻する所あり。幸に學界及教育界の重視する所となれり。

然るに遂に之を廢刊するの止むなきに至れる所以は何ぞや。蓋し學術研究の氣運急激に進展せる結果にして、地球の如く複雑なる性格の機關は寧ろ之を分解して、狭くとも深き範疇に局限するを可とするに至りたるに他ならず。

我地質學鑛物學教室は現在四講座を擁し、應用地質學と地史學とを中核として、岩石學及古生物學に關する研究をも之に含みて地質學本來の面目を發揮する他に、一翼には理論地質學を以て物理學及地球物理學の進歩に應へ、一翼には鑛物學に於て其本然の研究に加ふるに化學との接觸に格別の注意を拂ひ來れり。而して研究業績は京都帝國大學理學部紀要、其他學界關係機關に發表し來りしが、外には邦學の狀勢益々斯學の研鑽を必要とする秋に當り、内には新進氣銳の研究者を加へて陣容を新にし、研究の氣運彌々旺盛にして自ら独自の業績發表機關を必要とすること切實なるものあり。茲に新に學術報告を發刊し、完成せる業績と重要なる資料とを發表し、之を同學の士に頒たんとす。希くは江湖の援助を得て當を進め過を糺し、以て我國學界の發達に貢獻する所あらんことを。

昭和17年11月20日

責任者	{	松山 基範	榎山 次郎
		松下 進	田久保實太郎
		熊谷 直一	岩生 周一